日本山海名物圖會

三

P
283
3

逍遙文庫
文庫6
2154
3

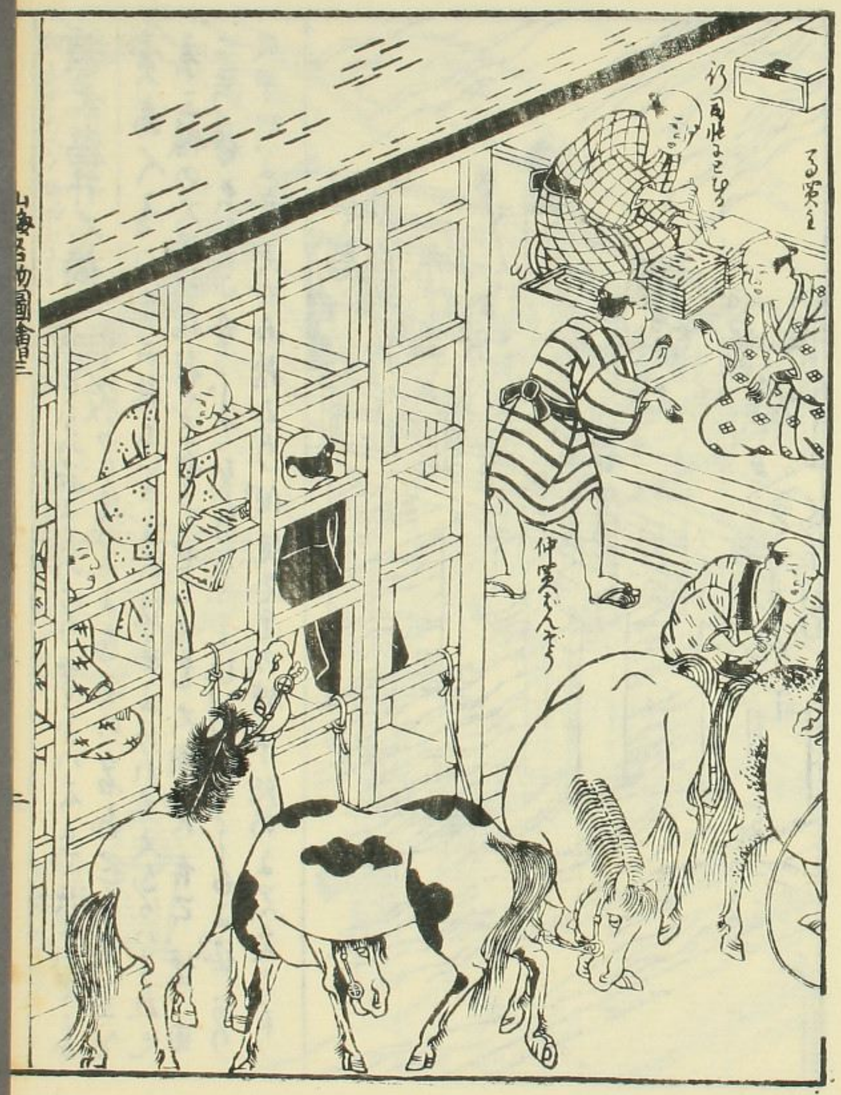
日光膳椀

下野国日光山ハ今ハ二十一里ばかり山ゆゑ岩
椀結構地みてつくり漆ぬりよりありこて
法人妻敬すべし。心越禅師題詩 刀鋸刪出方圓器
膠漆塗來金玉光。分手世間通貨宝。太平風雨拜君王

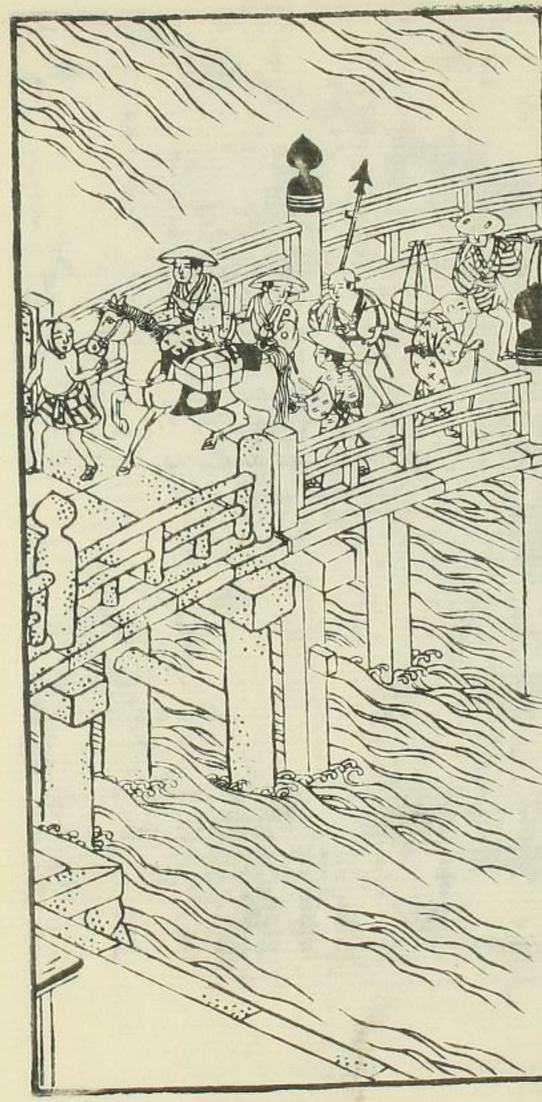
文庫6
2154
3

仙臺馬市

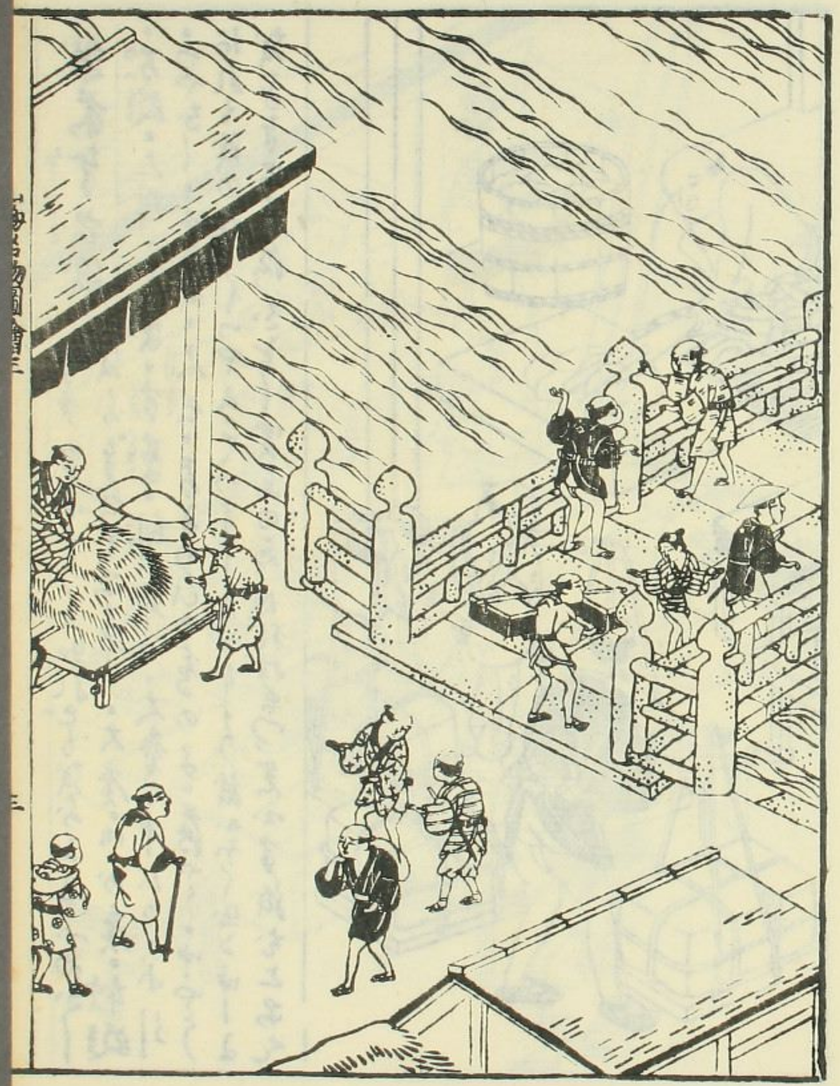
毎年三月上旬より四月中旬まで仙臺芭蕉の辻より
宮町上中下町と三所に分ちて一日ごとに立る市の形勢を
たとへ市をでまりてゐる七日ハ江府に寄る家より皮使まりて四方と撰むを次ハ
宮角の柔なる小荷駄と撰むを後ハ駄ッ馬七ツ時と沿りて賣買
市にのりてるをもり事れハ買をこれをえて仲買に売とて市をはらひと
定むる也仲買ひとり郷にてをはらひと定め賣買をすること

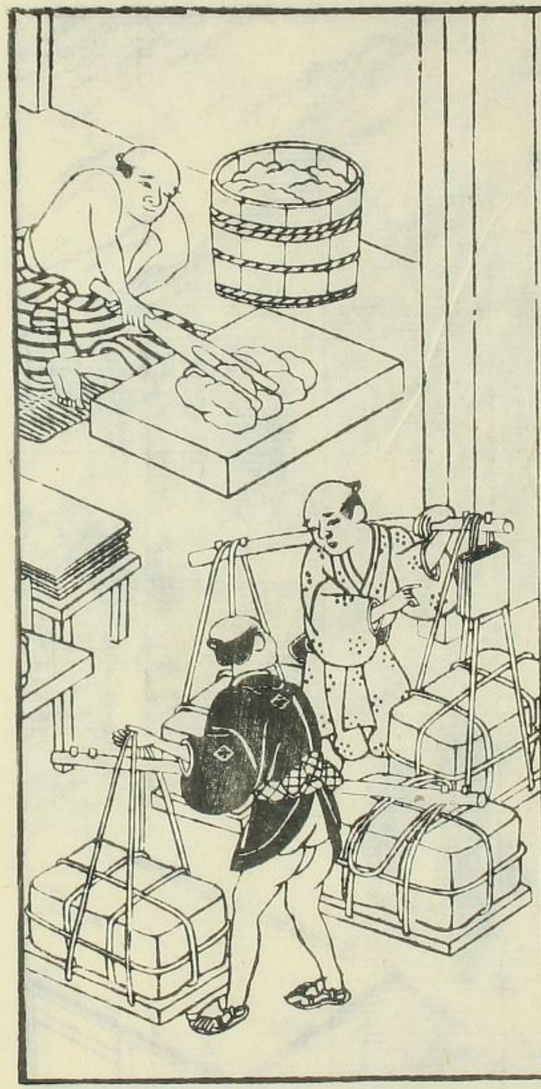


越前福井石橋



橋はまふハ石よてつくりまふハまよてはくれてを志
寄紙あり橋つめよ面白の名ねこて蓑笠と
賣商人ゑ○凡石橋ちいさきハ徒出よりれた大なるハまれく
京三條の大橋ハ橋杭と石よてせらる是大商秀吉て橋田
太閤様御ゆ命してをりたくしむ利ぎなくしゆ諸なり
又甲州よ寄吳の石橋あり但体先生の峡中紀行よえ云り





製紙法

まず糸屋より出れども紙おるは乃ふおるし紙おるを糸屋にて糸ゝ・大廣・中廣・枕紙・かい紙・上判・まき葉・敷紙・刷・丸・大奉・中たう・小引・つやかし・雲海・天せん・乃ふあひ・多のふ・巻やう・中やう・行れも紙の性よりつやをてつらし凡日かより紙おかく出る中は紙おるを糸屋にて乃ふおるし紙おるの面ゝ内紙材をつゝ巻出す紙を上ゆく

樟脳製法

くすのきと云ふの二ホンにて樟ハ木の名赤黒く香ひたち樟ハ香すくなく木のんまあらしべもよい大木をーくさりてハ黒と

樟ハ樹の根とたちかりねてきりけらと釜にてなべ底ふ底の内よ

其日釜をとうけ二度よすくく一度よ十二釜づてせかう合せ釜にて百三尺ぐらい

あけそ方と仕ホもろやうよしらゆく釜のふたい紙ぐ釜と術とのあを

去よぬりていきのおざろやうよすくくをかくたまりうる為刑樟猛ちり

讃岐平家蟹

蟹の甲は目鼻口ありて人の面のごとし俗伝に平家の一門讃岐の浦八島の浦にて滅亡せしかばかの方にて平家蟹と云ふ愚案ずるに此蟹の形状恐らくは武文の怨霊なるべきか桑の武文の怨霊なりと云又俗説蟹となる者後世門に入りて清盛蟹と云皆俗伝なり中義ふも愚説にて此うなり

讃岐産物

和菓子

寿菓なり

山海名物図会巻三

池田炭

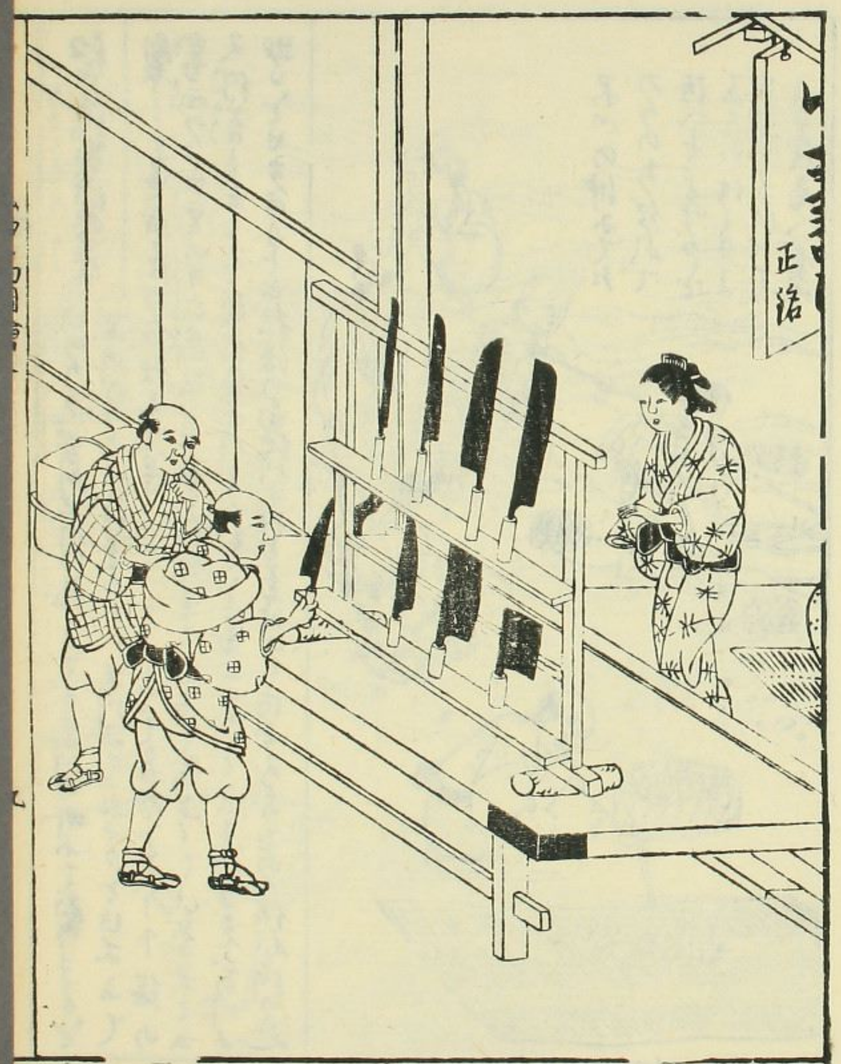
摂州池田炭は一名しゑ里とて獺ゑてやきて池田端ホ出たゝ炭竈は地とりてもとゑむろと造り跡先に口とあけ中へくぬぎとつゝ入てやくゝやきうげんとなてふゝとるとうふさおとゝれは炭抜してあゝく又ほくれはふとりてけゝとかく ふさのうげん大ほんれ焼炭法至ようゝ多く出といへは池田と窒ゝ

住吉浦汐干

三月朔日ごろ〻十日まで大汐おてゝ海〻永〻三月三日
潮干とて美麗を採集するゝ堺住吉浦ゝ三里ところひろこと
なれば人あの男女潮つよくて幾とゝれゝ又あの人い多く入て人あの人も賣あり
きべて潮干い入海のふい所をし日一日すゝ幾き堺浦住吉浦の塩干も名る
し尼崎浦の塩干素よりも海まて良所と入て八木川の汐干
あざやかなり山浦よい比月更多くして塩のこまるゝ長ゝとえあの人入れてたのもこれ

堺庖丁

泉州堺の津山上文殊四郎庖丁紙治の名人なり西鶴
居士と云双金のきさひとく切あぢ格別よう出双
藤双指分庖丁まる氣たぐこと庖丁伝れも皆名物人○芝よふいなく
庖丁鯨解牛庖丁いりく料理人の名人きくつひとう双ぬまれバ
とてつゆよ庖丁と双ぬの名くるせりむう伝人さうくりろこれ
故ゆとうて名分をめけん今の俗よ庖丁てき名ひろまう紙ろ



江戸浅草海苔

此のり元武州品川の海より出るとぞ品川の町にて製しうるなり浅草海苔のり仕上り正しくきうしうにて名産とす下総の曽西のり出生の十六島皆名産なり又河苔と云も元駿州富士川より出るなり日光のりと云托後の菊池川より出るとも菊池のり同生なれども伊豆河のり

品川の沖にて
のりのちぎれて
流れ来るを
見たる者は
幸運を得
浅草の商人の夢

京西陣織屋

大概 紬子 縞塩 金襴 縮緬 紗綾 編子 繻子 毛織 綾 光綾 菱字 光織 紗 菜丸 白呂 壊型綿 竜紋 製計目 天鵞絨 綿 竹布 絽 縮緬 帥織

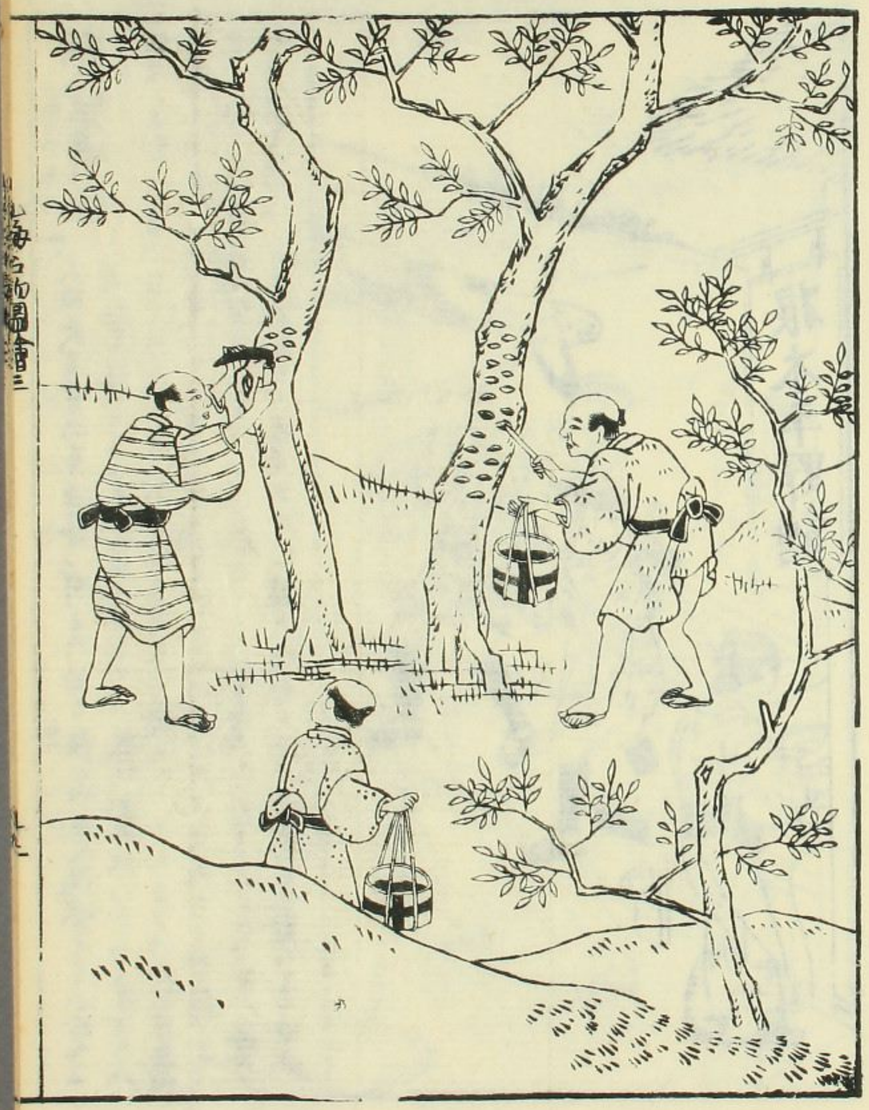
京都にて織出し織布まで功者にて産業ますけば次中ものは二重ハものろうてよきまうてこさやうこまっぷく

言撥

金銀今織の新出撥みてのること引とて上の方ヨて地紋とあやどりあり

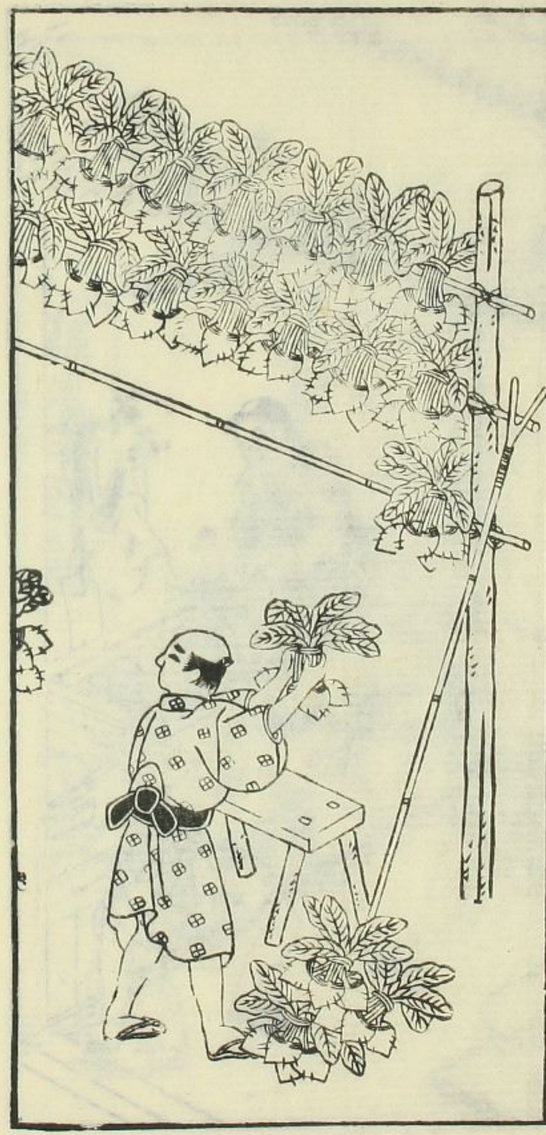
漆製法

漆の木は通よて切目をつくれバ白汁ゝさ出ると竹ゞしゝてこそげ入るうつゝ桶ゝ茶の椀させんゝ汁を入るゝれ池と加えてを上へ漆とこそげつくれバ漆やけゞゝてうとい丁元漆とゝるハ金てをそき木汁ゝ又極別の老木もるゝ　和州　吉野紀州　熊野うゝ此方ゝ此方ゝをかゝ結ゝるうゝ此木の実ハ入れて蝋ゝさるゝ



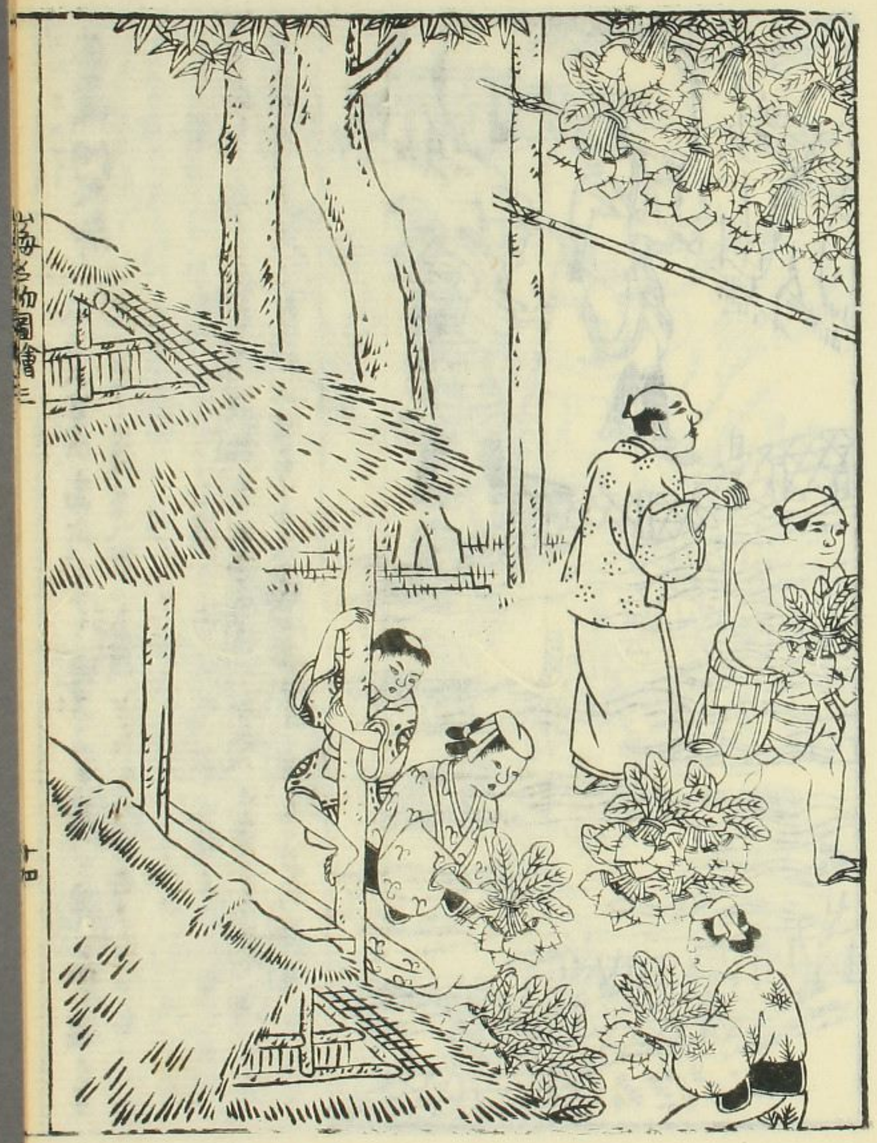
摂津平野飴

大阪天王寺の東平野町より出る飴名物にて風味よく小児之用ひて毒なし。業地黄熱あり。飴の製法いかゝ是とこハ
めーゑむーー茶一升ーゑ六合一升のつゆりとて右の飴めーとをよつけ壺大麦の
もやーの形茶一升ーゑ六合のつゆりとて右のめーれこよりうけ拵よて
ようくつきまぜ翌日布袋よてこれとこゝ答ゑ入てゆくき火をそ移り
つゆるゝ移りおくゝあるハ志るわめゝ移りつめゝるゝ地黄寒とて



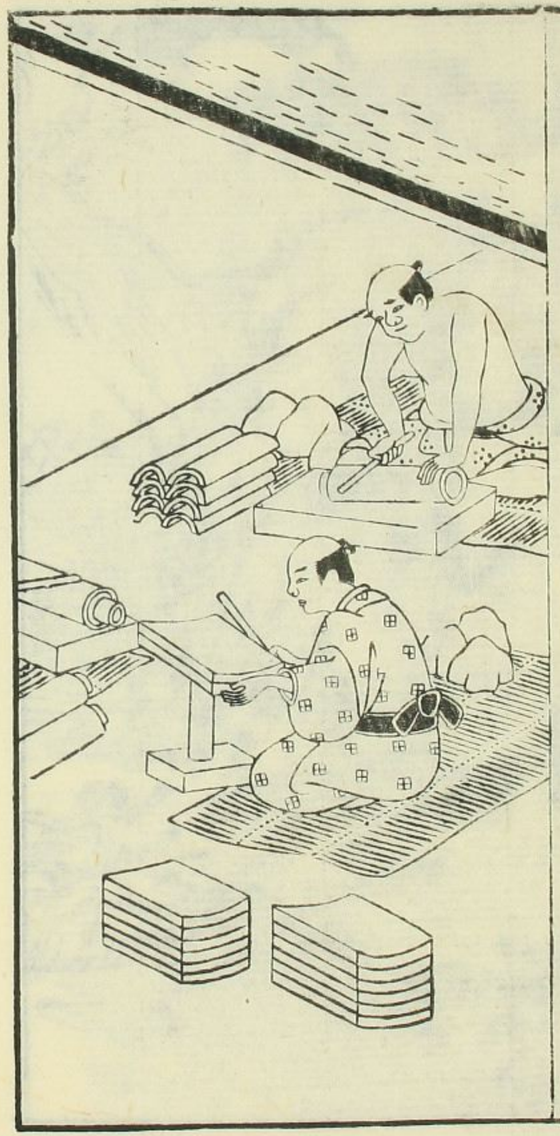
天王寺千菜

採別東成郡天王寺邊内かぶらの名產なり百姓
おほくうゑつくりと植てあまあるとも市に出
紙一束あり一うねとなりて花を實植月より正月
までの間ハ仆植とをるくらうらへて花とあるとも又仆をあまは
今年よりいつのあらう書千菜と如すまは今年のうづくれ熟九く
天王寺ハ小一細也一まは今年ハ天王寺ぶらこハ及びび



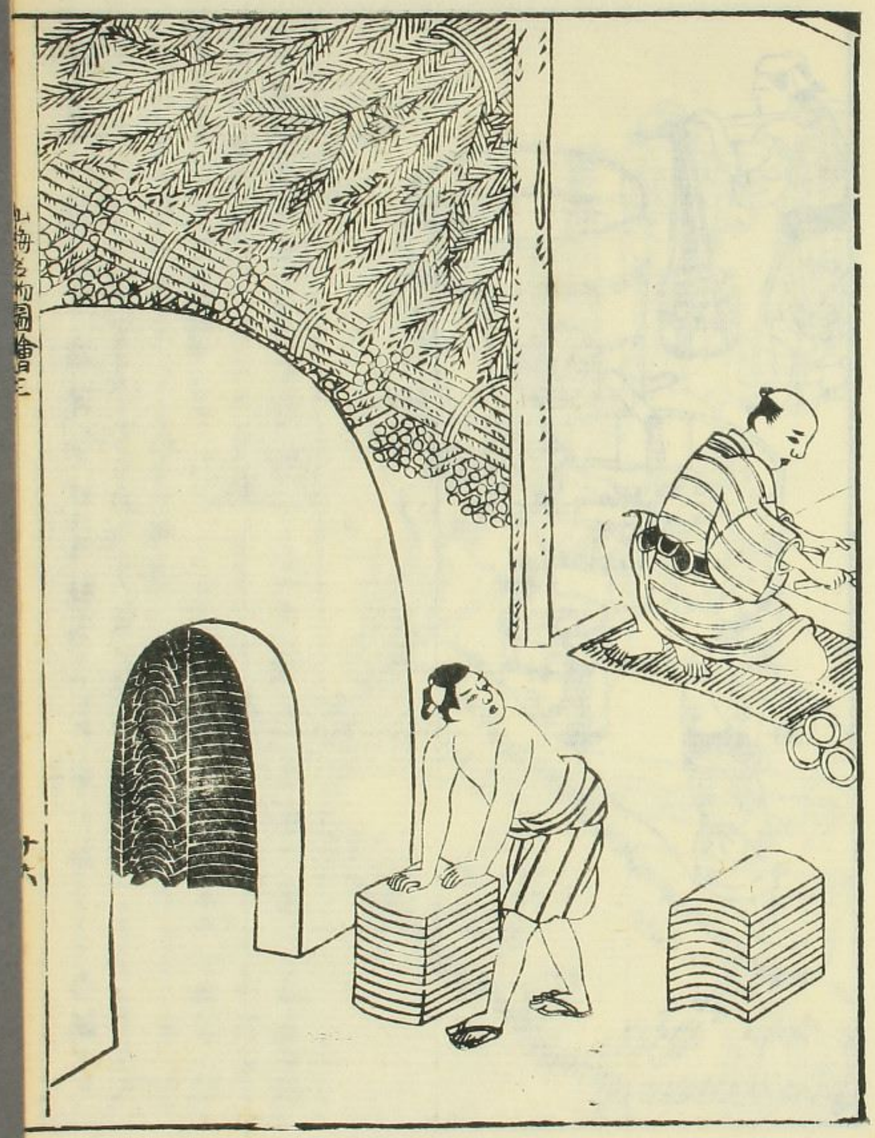
豊後河太郎

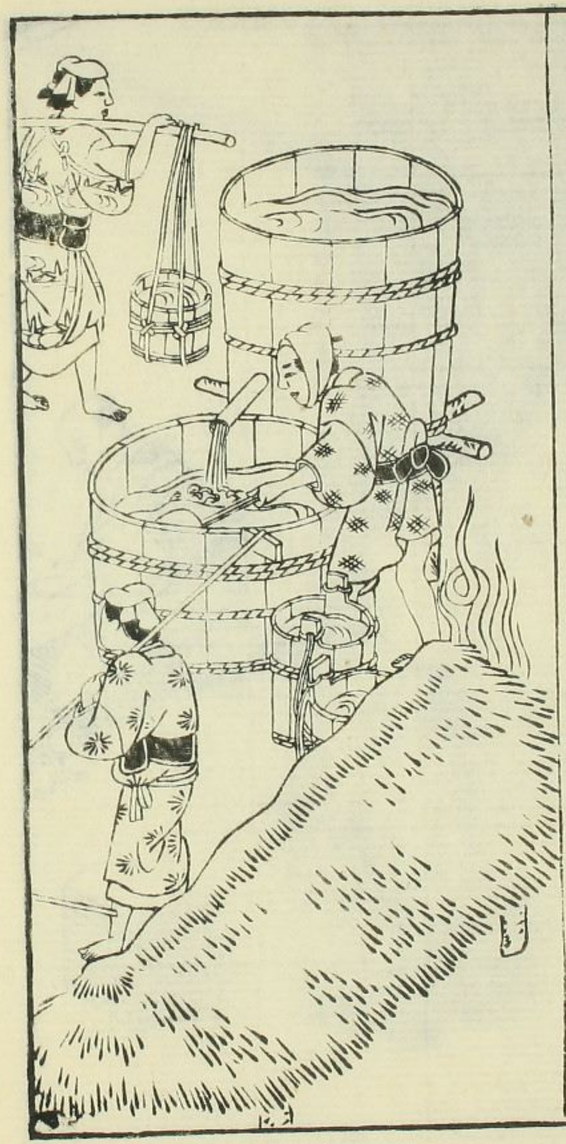
故五右衛門のごとく遍身むらうて猿の如く眼さろ
ぐ常は淵底へ出てお撲とれくくと泣くことあるまれ
なるもぢくくれば水中へ引入てくらう人を殺すのゆり河太郎とは撲とれるくハたと（猪でも四手を失ひ
大病をうくうくとなるさまれ抹香みるのもゆれバ正身は茶とく河太郎
さ後ゆるよ多くも分九州の中おくみる関東は多く実東はよてい河童とえく



大坂瓦屋所瓦師

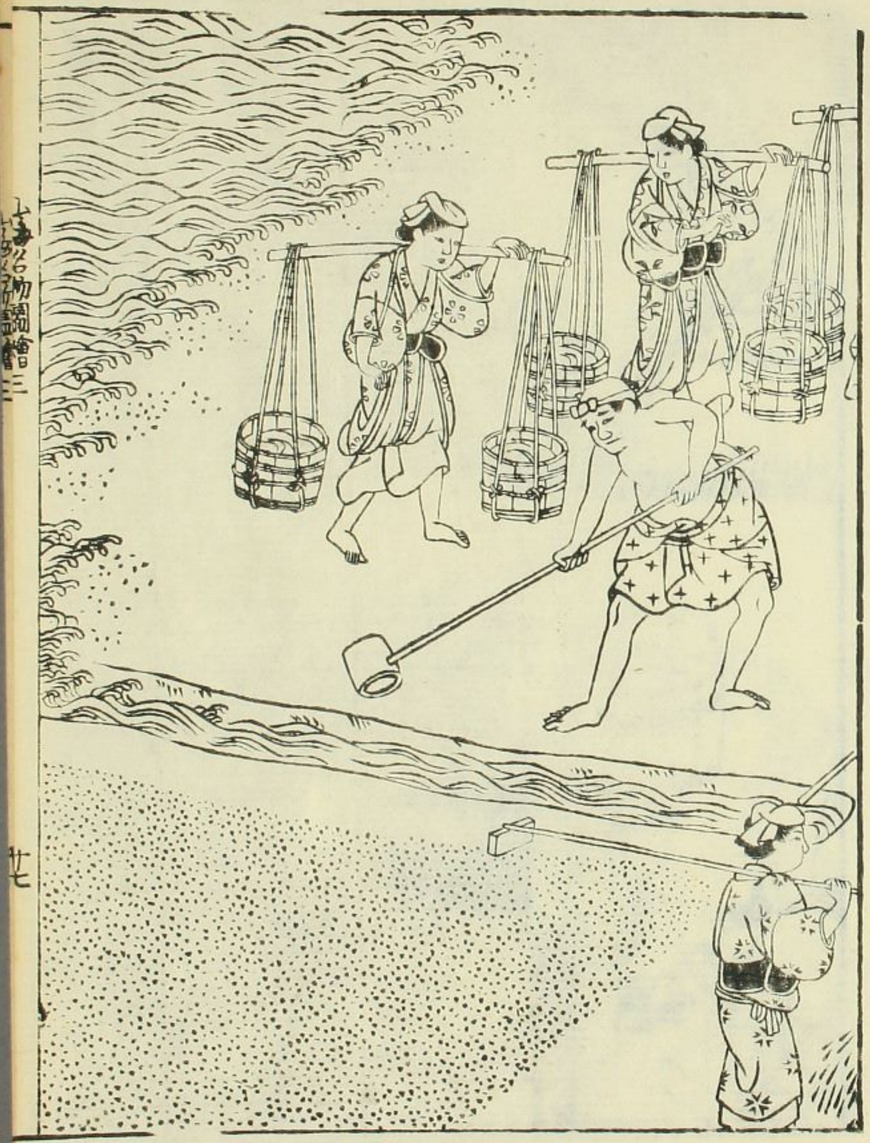
大坂あるは他の地をみて性よく瓦よやきてをうつくしくつくるに仁徳天王の御勅ふてつくるきやうのごとくなれば今の世にいたる繁昌ひさかりとなりまヘのふる瓦なり聖徳太子天王寺建立の時もはじめ地のたとをうつして瓦とおさめ元のふとくはいの瓦日本宗上ふて瓦玉の煤鉢よりも皆はじ瓦を用ひらる





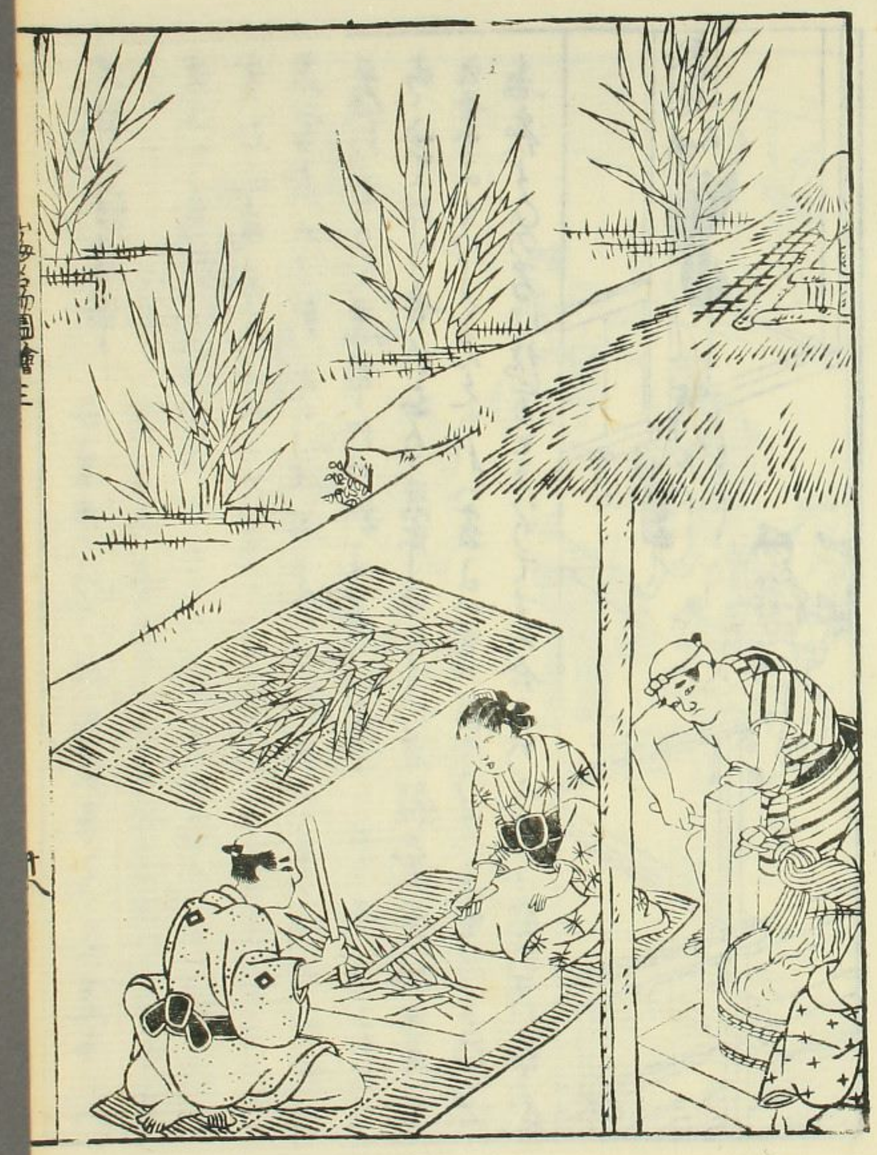
塩渕

海辺の鹵地をけづり平らかにしてしほみづをそそぎかけ日のかをりをうけてこれへもれ入れて桶へ入れてかわかしてこれを釜にうつして松葉をたくべしかくのごとくむ皆女の手仕なり あるひは桶をうけて海と塩渕へ入れもかりなり 故に海辺より多く塩出るとい へり 摂州赤穂の塩と名付これ



薩摩大鳴黒砂糖

尊蔗と云茎信は砂糖黍と云茎は竹に似て茎ハ黍に似たり実あり古根に苗を生ずとあるとくたくさくできて葉じつは石灰を加へてからめるとあるは砂糖とうに百性多くこれとつくりて糸黍に納む菓子を製するにあらずこれを用ゐるとあるは唐ようにて白砂糖氷砂糖とう〻あるを皆此茎より日本にて黒のみハ白ハ不出来



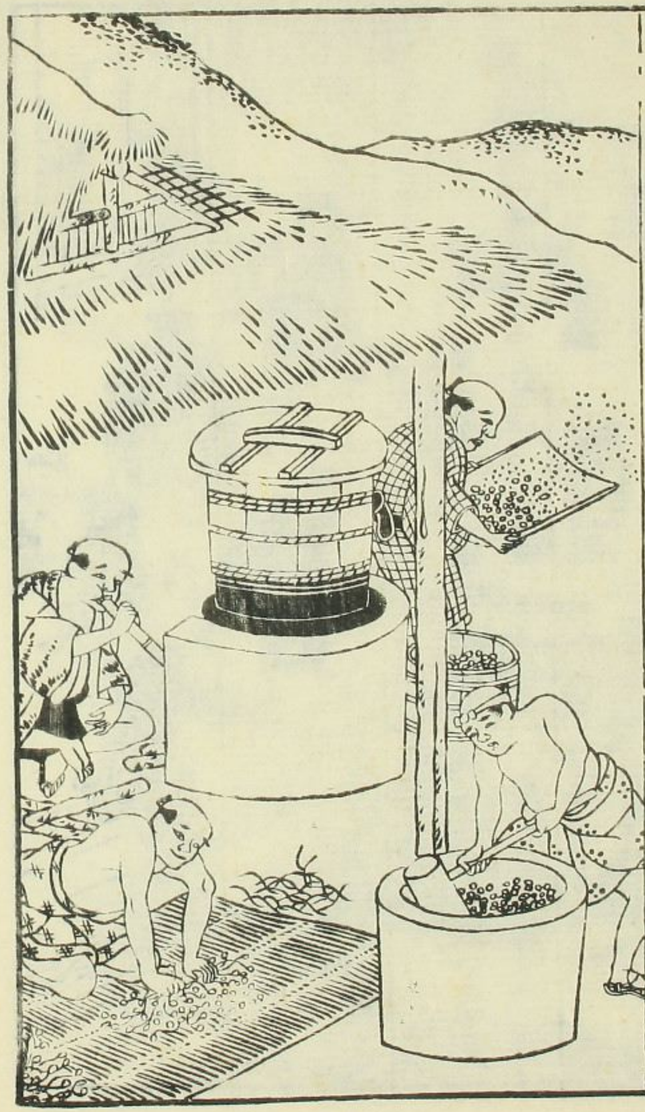
大坂の浜米市

西米市ハ市ノ北合米市ニて正米市ニハ
現米の賣買あり北合米とハ西国
米ふて来り引して利換とそ云ふ〈北合米ハ加賀越前佐渡三国俵を一商ひ
宝むゑ虎市とハ市ノ北ハ二十石ばかりの賣買くやりくり
夜間賣ハ十軒あり北合米と引結てる下の西浜と
米引とる〈虎市ハ別よ米引場と云ふの一ケ所にて
ちてけ一合ハ市のことハ米穀賣買出世車と
云書よくりくりくえれハ安ハ書ハやりくりあ智のくよ代小米
毎夜よひの月に彼方をまりてすめ合よりく米小取ひ代れ絵これ

米お搬表の雑

晒麻

麻ハ黄蘊のまの実ゝ蒸籠みてむしたぐらうゝ
白よてつき麻ゝん薩ヶ島彼中島奥州會津ま
ゝ〳〵麻出ゝ外彼島ゟもあり又庵ゟうわゝうなり
ゝ〳〵麻ハ糸ゝ拔ゝふて去の黄麻とゝ〳〵て白麻とゝゝ也



早稲田大学図書館
011688995088